

2つの大会参加(優勝!)を通じての学びと成長

株式会社つうけん
道東事業部 帯広事業所 技術部
坂本 泰一さん

つうけん期待の若手エースをご紹介します。

先に開催されました第13回アクセスデザインコンテストで見事優勝を果たした、坂本 泰一社員です。

坂本社員は、2018年の第13回光通信工事技能競技会に入社3年目で同期2名とチームを組み、選手として出場し、会社初の「総合優勝」に輝きました。

目標達成するにはどうすべきかを自ら問い続ける姿勢が誰よりも強く、1つの目標達成に満足せず、常に向上心を持ち続けている若手リーダーです。

1. 光通信技能競技会を経験して今思うこと

入社後に研修等を通じて培った光ファイバケーブル接続を含む多くの技術や大会等への意欲が認められ、会社の代表として技能競技大会に出場することができました(写真1・2)。

つうけん社内初! ~2つの大会で見事優勝~



坂本 泰一 (さかもと ひろかず) 30歳
<所属: 道東事業部 帯広事業所 技術部>

■主な経歴

2016年4月1日 入社

2016年4月~2018年7月

人材開発部勤務

施工基礎、主に光ファイバ接続を習得

2018年7月5日 第13回光通信工事技能競技会出場

2018年8月~ 現在の所属である帯広事業所へ異動

サービス総合工事の設計担当として従事中



写真1 2018年第13回光通信工事技能競技会表彰式(左が坂本社員)



写真2 2018年技能競技会の一場面

もちろん、技能競技大会へは初出場でしたが、日頃より実施している事を思い出し、プレッシャーと緊張の中で時間内で自己のスキルを100%発揮できたと思います。

大会においては入社3年目での参加ということもあり他社の参加者に比べスキルが劣っていることは明確で、かつ練習期間も限られた中で取り組まなければなりません。その中で成長し結果を出すには、練習量もこなすことは当然ながら、どのようにスケジュールを組み立て、優勝を達成するかが重要でした。

そのため、小さな課題や目標を決め、着実に達成する事、また、技術面以外での作業をしやすくなるような道具等の工夫、ミーティングを重ね、チームメイトと互いに問題点や改善案等を指摘しあうことで技術やチームワークを向上させ大会に臨みました。

何より、ご指導いただいたみなさんのおかげで優勝することができたと思っています。

このようなことは通常の業務においても通用すると考えています。

計画なしに業務等をこなしては、最終目標を達成することはできず、スケジュール管理や業務上の問題点となっている事の解消、意識合わせ等を他のメンバーと行わなければ自分の目標は達成できません。

当たり前の取組みかもしれませんが、実際の仕事現場では、できていない部分も多々あると感じており、たくさんさんの経験をしたからこそ、自分が中心となって改善できるよう精進していきたいと思います。

例えば、現状の課題として施工班のマルチスキル化が遅れている事を肌で感じています。

高スキル技術者を増やし、工事の一気通貫を最終目的とし頑張ります。

今は、自分の成長だけではなく、後輩が育ってくれるためにも尽力したいと考えています。

～何事にも感謝の気持ちを忘れずに～

2. アクセシビリティデザインコンテストに出場して

設計業務に従事して、丸4年経った2022年、15人がエントリーしたつうけん社内選考会を通過し、出場することができ、初チャレンジながら優勝を勝ち取ること



写真3 2022年第13回アクセシビリティデザインコンテスト中の様子

ことができました（写真3）。

私は、設計業務を行う際に、これまで培った施工に関する数々の知識を活かし、工事規格、品質、安全性を損なうことなく、図面に表現することを心掛けています。

以前からアクセシビリティデザインコンテストという大会自体には興味はありましたが、自分の設計スキルが通用するのか、まだ経験が不足しているのではないかと不安な面もあり参加に躊躇していましたが、上司の強い推薦もあり参加を決意しました。

大会までは日々の業務をこなしつつ、自分の経験のない工事内容に関する箇所の工法書等を一から読み直し、設計業務に関して学び直しをすることで知識を蓄え、大会に臨みました。

私の日頃の業務は、支障移転工事がメインであり、チームメイトは開通工事がメインの業務だったため、お互いの知識の足りない箇所を補い合いつつ、協力し合うことが大切でした。

設計経験が20年というベテランのチームメイトにこんなこと…と気後れすることもありましたが、同じ目標を目指すことに年齢や経験を意識している場合ではないという気持ちは、2人とも一致しており、お互い遠慮せずしっかりと自分の考えを伝えあい、意見が出し合えたことで切磋琢磨できましたし、知識の定着がはかられ、自信にもつながりました。年齢も経験も違う2人が真の意味で協力できたことは大きな勝因です。

また、会社として過去の出場者の方からの指導含めさまざまなサポートをいただき大会へ臨めたことから優勝することができたと感謝しています。



左：チームメイトの斉藤誠さん 設計経験歴20年のベテランです

3. 今後に向けて

2つの競技会を通じて多くのことを学びました。

1つ目は、普段からの業務に関して考えながら取り組むことができているのか。

ただ業務をこなすだけでは成長はしないこと、年齢に関係なく普段から意見を言うことができる関係を同僚と築くことでお互いの知識やスキルの向上につながることをより深く実感しました。

2つ目は、100%の準備や勉強をしたとしても競技会では80~90%ほどしか発揮できず、100%の結果を出すには120%の準備や勉強を行わないと到達できません。

これらの事に関しては日々の業務においても同様で、自分が完璧に設計し、引き継ぎしたと思っても、施工ではさまざまな要因などから問題やうまくいかない場合などが起こることがあります。そのため、日頃からコミュニケーションを図り、自分の業務範囲外の事も頭に入れてながら業務することで、より良く工事を完遂できるのではないかと考えています。

光技能競技会とアクセスデザインコンテストとの両方に参加し、「優勝」というありがたい経験をさせていただきました。

その中で身についたスキルや経験を後輩等に伝えつつ、自らもさらなるスキルUPを図りながら業務に邁進したいと思っています。

また、今後は施工班だけでなく、設計者・施工管理も複合スキルを持つことが必須になっていくと感じています。そのため、設計のみならず、今後施工管理の業務や施工に関する知見を深めることでより複合スキルを兼ね備えた人材になり、そのスキルをそれぞれの業務にだけ発揮するのではなく、横断的に活かし、より良い業務環境を築き上げていきたいと思っています。

向上心を忘れず業務に取り組み、自分自身の価値を高め、会社になくてはならない存在になれるよう日々を積み重ねていきたいと思っています。



帯広事業所の仲間とのひと時（坂本社員 奥側）

誰よりも真面目、誰よりも向上心にあふれている坂本さんですが、後輩や仲間と一緒に過ごす時は和やかな笑顔が一杯です。